

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

港南中央地域ケアプラザの担当エリア(上大岡、笹下、日野第一)は鎌倉街道・環状2号線・笹下釜利谷道路の大きな3つの幹線道路に面し、地下鉄やバス等の交通網は充実していますが、その反面、主要道路の左右は急な山坂で道路幅も狭く、車が通れない場所もあることから、高齢者・障害児者・乳幼児をもつ親にとっては、外出や買い物等がしにくい状況が見られます。また、どの地区も高齢化率は区平均を下回っていますが、丁目別に見ると30%を超える地域もあります。住民相互の助け合い活動である「福祉ネットワーク」に関しては周知不足や担い手不足などの課題はありますが、どの地区も早くから活動が実施されており、住民同士の支え合い活動の土壌ができています。

当ケアプラザの担当エリアが広いため、ケアプラザまで遠い方は足を運ぶ機会が少なく、ケアプラザの役割等の周知が十分行き届いていないことや、講座に参加できない現状があります。そのため、身近な場所での講座開催から居場所作り、そしてその場で出張相談につなげることで、日頃ケアプラザを利用しない方にも周知し、相談がしやすい関係づくりを行っていきます。また、地域と協働で身近な場所での住民同士の交流のきっかけづくり、見守りや、自立支援のための拠点となる場所(介護予防教室等)を作っていきます。

高齢者の方が増えるにつれて、認知症の方も増えることが考えられます。地域や中学校等に認知症サポーター養成講座を継続して開催することで、多くの世代の方に理解を広げることや、企業等からの依頼がある「認知症の方に対する具体的な対応方法」についての講座も開催をしています。企業からの依頼は潜在的にもまだまだ見込まれると考え、業務にて認知症の方への対応に悩まれている生活に密接した企業・商店等へ働きかけて、さらなる講座の開催へ繋がります。地域の方に限らず、企業等が、地域の一員として、認知症についてより理解が深まることにより、認知症の方と家族が、安心して生活することができるように取り組みます。

また、高齢者の方が在宅生活を続けていくにあたり、介護保険だけではなく、医療機関との連携や、地域の方のゆるやかな見守り、介護保険外のサービスの活用など、様々な方との連携がより一層必要になってくると考えています。関係する方々と情報交換や困りごとの検討をする仕組みを作ることによって、高齢者の方が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるように取り組んでいきます。

地域福祉保健計画の推進については第4期の中間振り返りの年となります。コロナ禍が収束していく中、再開する地域活動を踏まえながら、支援チーム会議の場を設けて、地域の方とともに計画に沿った取組をチームとして実現できるよう支援していきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	身近な場所で居場所・拠点作りをすすめ、地域や近隣の区民利用施設等と連携して事業等を開催することで、日頃ケアプラザを利用しない方にも周知をすすめていきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Wi-fi、ホームページ、SNSといったICTを事業や会議等に積極的に活用し、新しい情報共有・交流について検討・実行していきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	認知症になっても安心して生活が続けられる地域を目指すため、認知症の方やその家族への支援を行うと共に、認知症理解を深めるための活動を展開します。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	災害時要援護者である障がい児者・高齢者と地域等を、「防災」等をキーワードにしてマッチングを行い、それを有事の備えと平時の見守りにつなげていきます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	包括が把握した個別相談とコーディネーターが把握する地域や福祉ネットワーク等の受け入れ状況を所内で調整しつつ、場合によっては地域ケア会議等で地域と共に検討を行い、5職種で連携して実際の支援につなげていきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

身近な場所での居場所作りでは、町内会館での介護予防講座等を継続的に実施したり、マンションの共有スペースやお寺・コミュニティハウス等での地域の居場所の立ち上げ支援を行い、ケアプラザの利用がない方にも周知をすすめた。ICT活用に関しては、ZOOM配信を利用し、ケアプラザから遠い方にも身近な会館等で体操や健康に関する講座の配信を積極的に行った。普段ケアプラザまで来ることができない方にも受講してもらうことができた。認知症関連事業に関しては、認知症カフェふらっとほーむを継続的に行い、当事者や支援者側の居場所づくりを行っている。また、チームオレンジ事業では、認知症の当事者を含めた地域の支援者向けにVR体験会や認知症に関する講座を開催した。知的障害、発達障害といった外からは見えにくい障がい者が防災拠点訓練に参加後、その経緯を地区研修で取り上げ、障がい児者の見守りについて地域と一緒に検討することができた。5職連携での地域ケア会議 上大岡地区で居場所づくりに繋げたケア会議、精神疾患で独居の方が地域で本人が支援の経過を表現出来る個別会議(同じ人で2回目)を開催した。5職種の日常業務の共有や得意分野を発揮することができた。

区からのコメント

コミュニティハウス、保育園やほかの地域ケアプラザ等と共催で事業を実施しており、各々の強みを活かしたり、これまでつながりのなかった方々へアプローチができています。地域を参加者として捉えるだけでなく、支援者として巻き込んでいくことは、事業の活発化、持続性につながりますので引き続きお願いします。

対象地域の高齢者人口が多く、担当エリアも広いため、地区ごとの課題把握やそれに対応する難しさがあると思います。そうした中、チームオレンジ先行実施への取組や、区内事業所や地域との顔の見える関係作り、区域で実施している事業への積極的な関わりなど、様々な資源を活用して課題把握や事業展開につなげることができました。特に、相談に対して職種間で共有・分析し、そこから課題抽出・資源開発につなげるといった個別支援と地域支援の連動した動きは、複数の通いの場の立ち上げなど、多くが成果として目に見える形になっています。引き続き、5職種で連携し、取組を進めていただくことを期待します。